

---

令和元年 壱 岐 市 議 会 定 例 会 12 月 会 議 会 議 録 (第 5 日)

---

議事日程 (第 5 号)

令和元年12月12日 午前10時0分開議

日程第 1 一般質問

6 番 久保田恒憲 議員

3 番 植村 圭司 議員

---

本日の会議に付した事件

(議事日程第 5 号に同じ)

---

出席議員 (15名)

1 番 山川 忠久君	2 番 山内 豊君
3 番 植村 圭司君	4 番 清水 修君
5 番 土谷 勇二君	6 番 久保田恒憲君
7 番 音嶋 正吾君	9 番 小金丸益明君
10番 町田 正一君	11番 鶴瀬 和博君
12番 中田 恭一君	13番 市山 繁君
14番 牧永 護君	15番 赤木 貴尚君
16番 豊坂 敏文君	

---

欠席議員 (なし)

---

欠 員 (1名)

---

事務局出席職員職氏名

事務局長	米村 和久君	事務局次長	村田 靖君
事務局係長	折田 浩章君		

---

説明のため出席した者の職氏名

市長 …………… 白川 博一君 副市長 …………… 眞鍋 陽晃君

教育長	……………	久保田良和君	総務部長	……………	久間 博喜君
企画振興部長	……………	本田 政明君	市民部長	……………	石尾 正彦君
保健環境部長	……………	高下 正和君	建設部長	……………	永田秀次郎君
農林水産部長	……………	谷口 実君	教育次長	……………	堀江 敬治君
消防本部消防長	……………	下條 優治君	総務課長	……………	中上 良二君
財政課長	……………	松尾 勝則君	会計管理者	……………	松本 俊幸君

---

午前10時00分開議

○議長（豊坂 敏文君） 皆さん、おはようございます。

会議に入る前に、あらかじめ報告いたします。壱岐新聞社ほか1名の方から報道取材のため撮影機材等の使用の申し出があり、許可をいたしておりますので御了承願います。

ただいまの出席議員は15名であり、定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

---

**日程第1. 一般質問**

○議長（豊坂 敏文君） 日程第1、昨日に引き続き、一般質問を行います。

質問通告者一覧表の順序によりまして、順次登壇をお願いします。

それでは、質問順位に従い、6番、久保田恒憲議員の登壇をお願いします。

〔久保田恒憲議員 一般質問席 登壇〕

○議員（6番 久保田恒憲君） 皆さん、おはようございます。それでは、通告に従いまして久保田が一般質問をさせていただきます。

その前に、きのうテレビを見ていましたら、ラグビーの日本代表がパレードをしておりました。ベスト8ということで、パレードというのは、もっとう車か何かで大々的にやるのかなと思って、ベスト8でパレードかよと思っていたんですけど、歩いてパレードということで、非常にまた好感が持てたんじゃないかと思っています。

なぜここでラグビーの話をするかといいますと、実はラグビーで壱岐にも少し恩恵があったんじゃないかと思います。といいますのは、私の以前にもお話しました立命館アジア太平洋大学に外人の准教授がいて、私の空手の後輩で、来た年から留学生を連れて壱岐に遊びにきたんですけど、今回は、母国から親がラグビーの応援に来ると大分のほうに、自分の兄弟たちもオーストラリアから来るということで、3家族6名、本人も来て、せっかく九州大分まで来たんだから長崎に行きたいという話だったと、じゃあその私の後輩が長崎に行くんだったら僕は壱岐に行ったことがあるし、壱岐に行こうやということで壱岐に連れて来てくれました。非常に、壱岐がよ

かったのか、あるいは私に対する何かかもしれませんが、どちらにしろそういうケースは九州にイベントがあったら、福岡でイベントがあったら、そういう機会はあると思います。ですから、一つの参考として、私もインターナショナルをうたっていますんで、言うだけじゃなくて、少しずつそういう活動もしているんだということをお知らせすると同時に、これが東京だったら厳しいな、東京でオリンピックがある、じゃあ東京から壱岐に、日本に来るついでどうかなということも、ちょっと考えていただければと思っております。

それでは、通告書の質問に移りたいと思います。

今回は、費用対効果ということに的を絞って質問をしております。補助金、公費を使ったイベントの費用対効果の説明を求めます。

① 1番目にまずは新春マラソン、2番目がウルトラマラソン、そして3番目はCOZIKIプロジェクトの主に漫画とかカミテンということで質問をしております。

ただ、ここで通告書のほうには新春マラソンの島外からの参加者が362名、大会費用が約760万円、経済効果2,000万円で差し引き1,240万円の効果が出ている。動員したボランティアが160名の市の職員を含んで延べ600人というようなことで書いていますけど、事前に所管の観光課のほうに一般質問のために調べてくださいということで調べていただいております。その一部をこの通告書の中には書いております。忙しい中、もっと詳しく調べていただいた担当部署の方には、本当に感謝をしております。

第1点の新春マラソン、長い歴史がありますけど、経済効果が出ているんですが、600名のボランティア、これを人件費にしたら効果はかなり減るんじゃないかと、ボランティアだから人件費は考えないということもあるかと思っておりますけど、この費用対効果を考えたときに、最近はやりの言葉で言うと、コストパフォーマンスというんですね。コストに対してのどれだけの成果、これを調べていましたら、コストにはただお金だけではなくて、ネット開いたらすぐに管理部門必読とかいうふうに出ていまして、5つのコストということが出てきています。皆さんの執行部の方には、もう百も承知で釈迦に説法だというふうな形になるかと思っておりますけれども、一応お金だけではない5つのコストを考えなさいということでありましたので、簡単にひとつ経済的コスト、よくいうお金ですね。時間的なコスト、肉体的なコスト、労力とか手間とか、頭脳のコスト、考えること、思考であったり、最後に精神的コスト、不安、気遣いとかあるいは楽しいこともその中に入るとかいうふうに書いてあります。

当然、その費用の中には、こういうことはコストの中には入りますよね。その中にボランティアはこのコストには入らないかもしれませんが、それだけの人たちの協力を得て開催したイベントであれば、私はもっともっと経済効果なりが上がったらいんじゃないかと思って、まず1番目は新春マラソンについての見解を伺いたいと思います。

じゃあ2番目です。同じくウルトラマラソンは島外から629名、大会費用は約3,000万円、経済効果は5,000万円というふうに計算されております。差し引きすると2,000万円ぐらいですね。でもこの中で動員したボランティアは延べ1,100名、市職員がその中で400名、ここに書いてありますように、開催までの労力、時間外手当、さっきの5つのコストも考えて、これでコストパフォーマンスが果たしているのかなと、私はこれももうひとつじゃないかと思います。ここに書いてあります、伝統ある新春マラソン、最近始めたウルトラマラソン、この2つのマラソンを、今後も続けていかれるのかということ。このウルトラマラソンに関しては歴史が浅いということも考えて、この開催に至った経緯、それから国内というか、ウルトラマラソンとか言われるのが、今どのくらい年間開催されているのかなということをお尋ねしたいと。

3番目も、COZIKIですね、COZIKIプロジェクト、この中で、まず漫画の本3,000冊発行で1,882冊、創刊号が、2号が4,000冊発行で1,635冊、創刊号2号とも約半分ちょっと売れています。3号は、ただ2号は4,000冊ですから、創刊号は3,000冊、1,882冊、2号は4,000冊で1,635冊、これ半分っていないですね。それを受けて3号は4,000冊発行で10月末時点で641冊、各号にかかる制作費は発刊ごとに900万円、しかし、経済波及効果が1冊1,200円の漫画がそれだけ売れて226万円売り上げた本で4,700万円、経済効果がですね、2号は3,900万円、3号は1,600万円と物すごい波及効果が算出されております。

私も行きましたカミテン、同僚議員も行かれたそうですけど、島外から約300人を含み、延べ1,211人の参加で2,900万円の経済波及効果ですね。この漫画COZIKI関連で、合計1億3,000万円の経済効果となっています。

このお金は、の中のものがどのくらいが壱岐の中に落ちているのかなということでCOZIKIについての質問をさせていただいております。答弁の後にまた再質問をしたいと思います。

以上です。

○議長（豊坂 敏文君） 久保田恒憲議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。本田企画振興部長。

〔企画振興部長（本田 政明君） 登壇〕

○企画振興部長（本田 政明君） 7番、久保田議員の質問にお答えいたします。

初めに、事前にお答えをしておりましたが、少し認識が経済波及効果につきまして、認識が違うように思いますので御説明をさせていただきます。

経済波及効果とは例えば自動車産業の需要が増加しますと、これに応えるための生産拡大がその原材料の需要を生み、さらにほかの産業の生産が増加し、波及して続いていくということをい

います。新規の需要が発生することにより、波紋のように広がる経済連鎖を産業関連表に基づき推計し、効果額として算出し、可視化されたものでございます。

ですので、新春マラソンで申し上げますと、参加料収入の約380万円を含め、大会費用の全体額760万円及び島外からの参加費の交通費、宿泊費等が小売、広告、交通、宿泊など、どの産業分野に幾ら支払われたかに基づいて、産業関連費用に推計し、約2,000万円の経済活動が発生しているという指標でございます。このため、単純に幾ら島にお金が落ちたかというキャッシュフローの指標ではございませんので、人件費を勘案すると効果額が減るというものではございません。ウルトラマラソンについても同様でございます。

次に、それぞれの大会の評価と継続についてでございますが、まず新春マラソンにつきましては、昭和62年から第34回目を迎える新春をいろどる市民になじみの深い大会でございます。第33回では、参加者2,008名のうち、島内1,646名、島外362名と島内参加者が8割を占めております。確かに島外からの参加者を呼び込むことも一つの目的ではございますが、子供たちから高齢者まで、多くの市民ランナーがさまざまな思いを胸に参加してあります。社会体育と申しますか、市民の心身の健全な発達や明るく豊かな生活の形成に寄与することも目的とした大会であると認識しております。

大会運営につきましては、実行委員会の皆様、消防団など地域の皆様がボランティアとして協力し、大会を成功に導いていただいております。まさに市民力が発揮されるすばらしい大会だと思っております。

次に、ウルトラマラソンにつきましてはでございますが、第4回目を迎え、参加者695名のうち、島外が629名で90%が島外参加者でございます。大会運営費は約3,000万円で、そのうち1,000万円は参加料収入であります。経済波及効果は約5,000万円と推計をしております。

大会の評価は高く、全国のランナーが集まるインターネット上のサイトであるランネットにおける大会コースや運営などに関する総合評価は100点満点中86.1点で、ウルトラマラソン部門では全国2位の非常に高い評価をいただいております。全国のウルトラマラソンの大会は約20カ所で開催されております。

ランナーからのコメントとして、回を追うごとに運営、沿道の応援、エイドがすばらしくなっています。文句のつけようのないすばらしい大会でした。来年も参加します。間違いなく全国トップクラスの大会といった声をいただいております。まさに壱岐島が一丸となってランナーの皆様をおもてなしすることができた成果だと思っております。

議員おっしゃるように、大規模なイベント運営には大変な労力や時間を有することも事実でございます。しかしながら、イベントを通じて、地域力、市民力が向上することはすばらしいこと

だと思っております。ランナーへのアンケート等でも、再度観光などで壱岐島を訪れたいという意見が多く、大会以外での交流人口の拡大につながっております。来年度は記念すべき5周年という節目を迎えます。過去4回の大会の成果と反省を生かし、よりよい大会となるよう取り組んでまいりたいと考えております。

ご参考までに新春マラソン、ウルトラマラソンの両大会は大会当日、市の職員はボランティアとして協力しております。公費でサポートしているイベントにつきましては、壱岐島の認知度向上交流人口の拡大はもとより、集客による宿泊や交通など観光基盤の維持、イベント開催ノウハウの蓄積、地域力、市民力の向上、島民の健康、福祉の向上などの効果があるものと考えております。当然、大会の自走化や収支改善は実行委員会とともに検討していく必要があると考えますが、参加者のいちじるしい減少や大会の存続意義の消滅などがないこの2つのマラソン大会については、大会収支やコストパフォーマンスを理由として、中止や統合を判断するものでないと考えており、継続して実施していく予定でございます。

次に、3点目のCOZIKIに関する御質問にお答えいたします。

本事業につきましては、民間プロジェクトで作品の制作、雑誌の発行、販売等を行っております。壱岐市はこのプロジェクトと連携する形でCOZIKIを中心とした情報発信による認知度向上、参画アーティストや漫画家のファンを初めとした誘客促進、映画の聖地巡礼のような島内周遊の仕組みづくりを行う事業を行っております。

経済波及効果はCOZIKI関連で合計1億3,000万円の効果測定が上がっておりますが、幾ら壱岐に落ちたかという点につきましては、COZIKIを目的に来島した観光客の交通、宿泊、飲食などの支出や取材に来島する漫画家やアーティスト、スタッフの経費など、さまざまな要素がございますので、その内訳として幾ら島に落ちたかということをお答えすることは難しい状況でございます。

参考まででございますが、各号の制作において、アーティストの皆さんやスタッフの取材の滞在費として、1巻につき約200万円、3号までで計600万円、カミテンにつきましては、島外参加者300名の宿泊費と関係者の滞在費を合わせて900万円、またCOZIKIの販売実績から観光客が来島して購入した割合を推計して約3,000万円と推計しております。今上げた例だけで、合計約4,500万円が壱岐市に落ちたものと計算をしております。

先日の鶴瀬議員の御質問にお答えいたしましたですが、本事業は日本を代表する漫画家、アーティストの皆様が趣旨に賛同し、御協力いただいております。ファンを多く抱えるいわゆるインフルエンサーである方々が壱岐島に来島した感想や、COZIKI作品のことを個人やオフィシャルSNSで発信していただいておりますし、国内外を問わず、ファンを中心に情報が拡散されています。

第2号、3号と発刊が進むにつれて認知度が高まり、テレビ、ラジオ、雑誌、ネット番組など、さまざまなメディアで取り上げられ話題となっております。これらの情報拡散効果をどれだけの方に見られたか、カウントできるもので積算したとしても、効果測定をした業者の試算では、広告換算で2億5,000万円の効果となります。それだけの情報発信効果があったと考えております。

COZIKIは広告費を支払って掲載していただくのではなく、その訴求力で興味を持っていただき、取材依頼を受け取り上げていただくことが多いため、実際の情報発信費用に対してかなりの効果が上がっていると認識をしております。

このように国内外の認知度が上がり、壱岐島の来島のきっかけとしてCOZIKIという雑誌や作品など、アーティストによる新たな歴史ストーリーが島に残っていくことで、中長期的に壱岐島をブランディングし、マラソン大会を体育会系とするならば、COZIKIは文化系の観光客数を取り込んでいくしかけづくりになったものと考えております。

〔企画振興部長（本田 政明君） 降壇〕

○議長（豊坂 敏文君） 久保田恒憲議員。

○議員（6番 久保田恒憲君） 私、7番じゃなくて6番なので。音嶋議員がびっくりされてしまった。

先ほど、今部長が説明されたのは、事前に資料としていただいております。ですから、この資料としていただいた上で、それを要約して一般質問の通告をしているわけです。

新春マラソン、それからウルトラマラソン、特にウルトラマラソンは市長も力を入れられて、いろんな挨拶の中にウルトラマラソンがあります。御協力お願いしますというふうに言われております。終わったときには、おかげさまで成功裏に終わりましたというお礼の言葉を述べられております。ここでどれくらいの、じゃあどれを成功というのかという、やはり疑問がわくわけですよ。そういう意味で、私今回、費用対効果というこの質問をしたわけです。

もちろんボランティアは、市の職員も含めて頑張って協力しております。その人たちが回を追うごとにモチベーションが上がればいいんですけど、そういうふうにも見えない。逆に少し疲れたような言葉をもらう。そういうことがなければ、私も費用対効果とかコストパフォーマンスとか言いません。

今回、ウルトラマラソンは、日にちを変更されまして、市民体育大会の前日の土曜日にされました。翌日は市民体育大会の陸上競技、それから武道競技、私たちの空手も含めてあるわけです。土曜日に準備をします。陸上競技なんか特にたくさん的人数を必要としているようです。市の職員が出払っているから、私が空手道競技は残念ながら1人で体育館でこつこつと準備をしました。動員しようにも、大きなイベントにとられてれば、そりゃそちらを優先せざるを得ません。でも、

その中で翌日にはまた駆り出される職員もいます。それはそれで成功していればそれでいいんです。だから、もっともっとモチベーションが上がるようなイベントであれば私も協力するかもしれません。そういう意味でどうかなと思って、みんなのモチベーション、市民の方々あるいはボランティアにかかわる方々のモチベーションを上げるためにも、費用対効果、あなたたちの頑張りはこういうところにあらわれているんですよということを示せるような場が、あるいは数字があるんじゃないかと思って質問しました。

何をウルトラマラソンとかというのはいろいろあるみたいですけど、42.195のフルマラソンよりも、多い45とか50とかあるいは2倍の80とか100とかいうようなウルトラマラソンというふうにくくられているネットの情報で、ランナーズバイブル、ウルトラマラソン一覧というのがすぐ出てきます。これを見ると1年に122回のマラソンがあっています。その中には外国も4回あるんですけど。でも含めて長距離を走りたい、あるいはそういうのに興味がある人は、当然その中から選択をするわけですね、先ほど20カ所と言われましたけど、それは多分壱岐と同じように100キロかなんかかかもしれません。年間120回近く、5月24日、6月16日、多いとこで、マラソンが行われております。やはりその中に入って行って、当然壱岐に呼べるということでウルトラマラソンというアイデアが出て、今取り組まれていると思います。それはそれで、先ほど部長が言われたように、新春マラソンは市民ランナー壱岐の人たちの毎年の恒例行事だということであれば、それはそれでかまいません。ウルトラマラソンは、それこそ島外の人たち、それから日本で2位の評価をいただいている、だから続けていく。それはそれでいいと思います。日本で2位の評価を受けているなんて、皆さん、御存じないですからね。じゃあもっと頑張ろうやというモチベーションが上がるかもしれません。

ただ私は、ボランティアありきとかそういうのでは、ちょっと厳しいんじゃないかという考え。それと余りにもそういう行事が年間通じて行われていくと、さっき言いましたようにスポーツだけじゃなくてSDGsだのいろんな、あるいはまちづくりだの日曜日ごととか、平日も時間外とかいうのが続いていったら、それこそ一人一人のパフォーマンス能力の発揮ができなくなるんじゃないかと。そのことが壱岐市にとっていいわけじゃないので、今回は、このまずは走ることにしてお尋ねをしております。

それからCOZIKI、先ほど部長が言われたように、この中にあるんですよ、波及効果は総務省ホームページより平成27年何とか統合大分類、それはそれでいいんです。ただ、ここで費用対効果というのは、やはり地元でそういう実感がないと、皆さんは費用対効果があったなと思われません。

それと、メディア露出、広告換算費、露出媒体、広告で広告に使ったとしたら2億何千万円、そりゃあそうでしょう、そういう広告を有料とか何かでやるんだったら。でも、それに対する効



果が東京にあったってしょうがないでしょう、壱岐にないと。宣伝というものは、広告はその効果を直接的な効果を求めてやるんです。

例えば、芸能人とかスポーツ選手とかがドリンクかなんかわかりませんが、それを広告でテレビで発信すれば、それが売れるから高いコマーシャル料、年間何千万円か知りませんが払ってやるんです、それが広告なんです。広告は効果が上がってこそ、狙う効果が上がってこそ広告料をかけたかがあるんです。先ほど言われましたように波及効果があるとしたらその波及効果は壱岐に及ぼさないといけない、で言えば例えば壱岐にどれだけ落ちたかわからないって言うのであれば、来年とか再来年とか壱岐への来島客数はふえるはずなんです。その中から、逆に言えば、各宿舎ごとにアンケートか何かで何で壱岐を知りましたかとか、何を目的で来ましたかとかいうようなアンケートなんか、各宿舎ごとにとっている場合もありますから、そういうのでやればすぐわかるはずなんです。COZIKIで壱岐を知ったからとか。ぜひそういうふうに継続して、その効果を確認する方法はとってください。

それと追加の質問で、COZIKIの中で、漫画はカルチャー誌って書いてありました。次に、カミテンでは、サブカルチャーというふうに書いてありました。このカルチャーとサブカルチャーの違いをおしえてください。

○議長（豊坂 敏文君） 久保田議員。

○議員（6番 久保田恒憲君） いいです。今調べられなくていいです。重要なことなんです。COZIKIというカルチャーというのは、私は英語得意じゃないですからね、文化ですね。COZIKIの中にある壱岐のそういう文化を発信していこうという、それは漫画を通じて発信していこうということだと思うんです。でもその内容はそれとは違う、COZIKIの漫画を見てわかります。カラスが出てきたり、えっというような、それはサブカルチャーなんです。正当な文化の反対にあることをうまく使って、それをサブカルチャーというんです。

そしたら、最初から多分これはサブカルチャーなんです、その漫画COZIKIの取り組みは。そのくらいは、壱岐市の観光課、これをどこに委託するにしろ、そういう中で進めていくときに、壱岐市をこういうふうにして売りたいと思いますという説明があったはずですから、その中で議論したり、その中で気合い合わせをしたり、ああなるほど、正当じゃなくて、違うサブの面から攻めていくんですね、じゃあ客層はそういうところじゃなくて、それこそサブカルチャーに関心のある人たちをターゲットとしているんですねぐらいのことはわかっていなくちゃいけないと、私は思います。

COZIKIの本を読んだ人の感想は、多分サブカルチャーという意味がわかっていれば納得されたと思いますけど、そうじゃない普通の人は、えっという感想が大部分だと思います。売れ行きを見ても1,882、次は1,635、普通の出版数であれば、売れ行きが多いと増刷します。

そうじゃなくても、2号から4,000、3号も4,000、10月末で641、さんたんたる売れ行き、多分これはもうスケジュールの中に入っていたんでしょうけど、これをもって宣伝広告が宣伝の費用に換算したらこうなんちゅうのは、それは、私は説明として納得はいきません。

取り組んでいる人、一生懸命、この事業に手を上げて取り組んでいる人たちも、自分たちのまちなり、あるいは神社なりにそういう効果がなければ、それこそ頑張った甲斐がないではないですか。ここに手を上げて取り組んだ人たちとの、途中の検証でもいいですけど、なされていますか。

○議長（豊坂 敏文君） 本田企画振興部長。

○企画振興部長（本田 政明君） COZIKIの途中の成果等につきましては、今後さまざまな宿泊者数等の分析に努めたいと思っています。また、1号、2号それぞれ発刊しておりまして、そのためのCOZIKIを買うために壱岐を訪れた観光客も多くございますので、その辺につきましては、実数を把握しているところでございます。

○議長（豊坂 敏文君） 久保田議員。

○議員（6番 久保田恒憲君） せっかく頑張っているもちろん市の職員、それから担当の人たち、余り厳しいことは言いたくないんですけど、やはり私が言いたいのは、税金を使っているんで、補助金を使っているんで、あるいは逆に私たちもそうですけど、議員も市の職員も税金でもって働かさせていただいているんで、やはりその人たちの最大の仕事というのは税収をふやすというか、それこそ活性化だと思っんです。リスクはそこにあると思っんです。民間だったら、それこそ新しい食品なり、例えばカップラーメンなり、新商品を出すんだったら社内で食べてみて、売り出してみても、売れ行きを探りながら、これはよかったね、悪かったねというのをやっていくわけですね。そういう大きな損失は出ないとはいえ、行政とはいえ、やはり大きなプロジェクトであればあるほど、事前にみんなで打ち合わせして、関係者で打ち合わせして走りだしたら途中でまたチェックするとか、そういうことは、私必要じゃないかと思っております。そのことで多くの人間が動いているわけですから。

ちょっとひとつ、全然違うんですけど紹介させていただきます。というのは、やはり有名な人とか何かに頼むのもいいんですけど、都会の知恵とか言いますが、先日、佐賀のほうに行きまして、新聞でちっちゃい広告を見つけまして、環境芸術の森という小さな広告を見つけました。森は海を育てる、よく言われていることです。唐津の厳木町にあるので、こりゃいいやと思って行きました。ちなみに、環境芸術の森って御存じの方、ちょっと手でも上げてもらえます。ここは40年くらい前に1人の造園家があるきっかけで自然の森をどうかしてつくろうということで、こつこつと森にいろんな木を植えて、今のシーズンは紅葉がすごいんです。私もその紅葉を求めてこの環境芸術の森、厳木町ですから行きました。物すごい観光客です。そしたらすごいですね

という話をしたら、RKBか何かのテレビで生中継してもらったのがきっかけで、すごい観光客が来ているということです。

もう一つ、武雄市に、前も話したかと思いますが、庭木ダムってあります。周囲2キロぐらいのダムです、人造ダム。これも40年かそれくらい前に、せっかくダムができるんだったら、市民の力で市民の憩いの場にしようということで、桜を植えて、その桜が今何年か前からでしょうね、物すごいきれいな桜のダムになっています。私も偶然ここを見つけて、次の年に行って、それこそそのにぎわいに驚いています。

ここで言いたいのは、市民の力、市民が一生懸命やっていることが、やはり本当の意味で実を結んでいくし、そういうのもうまく引き出してやっていただけないかなと思っておる次第です。近くにいい例があります。座っていては何もわかりません。またいい例があれば、ここでこういう場でも紹介したいし、あるいは直接担当課に話を持っていくこともあるかと思います。ということで、このイベントの費用対効果については、その壱岐市の思う効果と一般市民の効果は、ちよっと違うんじゃないかということをおわかりいただけただけでも質問した意味があるんじゃないかと思います。

それでは次に、スクラップ・アンド・ビルド、よく言われています。これも、スクラップをするビルドをする、しかしスクラップをしないでビルドばかりじゃないかという声があります。スクラップをすればいいというもんじゃないで、スクラップをしたら後始末もいる可能性があります。ビルドをする、スクラップの後始末をしながらビルドをする、それはそこにまた一つ大きな手間がかかります。これを先ほど言いましたように、釈迦に説法だと思いますけど、そういうことを踏まえた上で、どんなビルドがあったのか、あるいはこれは非常に断腸の思いでスクラップしたというのであればお伝えいただければと思います。

○議長（豊坂 敏文君） 久間総務部長。

〔総務部長（久間 博喜君） 登壇〕

○総務部長（久間 博喜君） 6番、久保田議員の御質問にお答えいたします。

例年、当初予算編成方針にはスクラップ・アンド・ビルドの徹底を掲げまして、限られた資源、人、物、金など最大限活用し、効率的かつ効果的に事業を実施するため、事業の優先順位を見極め、事業の選択と集中を図るとともに、新規拡充事業ビルドの財源は、既存事業の見直し、スクラップにより創出することを基本とし、なおかつ政策評価の判断を参考に予算編成を行うこととしております。

議員御質問のスクラップした事業については、合併後、29事業について事後評価及び補助金検討委員会の提言等による見直し、スクラップを実施をしております。スクラップ事業の内訳といたしましては、総務費関係が3件、民生費関係が2件、衛生費関係が2件、農林水産業費関係

が18件、商工費関係が3件、教育費関係が1件、合計29件でございます。

なお、各種事務事業の見直しにつきましては、第2次壱岐市行財政改革大綱これは平成27年度から平成31年度の中でも、事務事業の見直しとして掲げ、各部所に取り組んでいただいたところでございます。

この第2次壱岐市行財政改革大綱については、期間が本年度、令和元年度まででありますので、本年度第3次壱岐市行財政改革大綱として見直し、改定を行うこととしておりまして、その中で改めてスクラップ・アンド・ビルド、事務事業の見直しについては当然盛り込むべき内容であると考えております。

各種事業につきましては、政策評価等でも検証を行っているところでありますが、さらに今後は、各施設のあり方についても検討する必要がある、壱岐市公共施設等総合管理計画に基づき、施設の統廃合についても協議してまいりたいと考えております。

また、老朽化が進行している公共施設の維持改修、更新に必要な財源確保のため、あらゆる工夫や手法を検討し、経常経費の節減、事務事業の簡素化に努めるとともに、スクラップ・アンド・ビルドによる最小コストで最大の効果を上げるため、財源の重点配分を行い、適正で効率的な行財政運営に努めてまいります。

以上です。

〔総務部長（久間 博喜君） 降壇〕

○議長（豊坂 敏文君） 久保田議員。

○議員（6番 久保田恒憲君） 常日ごろ、市長はスクラップ・アンド・ビルドと言われているので注目をしています。市長の頑張りには本当に私も大丈夫かなと思うくらいの活躍をされていると思いますがぜひ先ほど言いましたように、頑張りが市民にうまく伝わって、さすがだなと思えるように、わかりやすい説明、取り組みをしていただきたいと思います。と考えております。

中央志向はわからないではありませんけど、先ほど言いましたように、やはり地域の人たちの力は間違いなく必要ですし、福岡市の力も必要です。東京は東京でかまいませんけど、東京に進出したときに、果たして我々に何が応援できるかというのは、まだちょっと私自身もここでわかりません。できればこういうことをやってくれというふうに言われれば、それにできれば私もそれに力を注ぎたいと思います。市長の何か御意見があれば伺いたいと思います。

○議長（豊坂 敏文君） 白川市長。

○市長（白川 博一君） ただいま久保田議員の御指摘、十分に心にとめて今後、対応をしていきたいと考えております。

○議長（豊坂 敏文君） 久保田議員。

○議員（6番 久保田恒憲君） 期待しております。私たちが先ほど言いましたできることは、当

然応援をしなくてははいけませんし、これはおかしいなと思うようなことがありましたら、私たちもどンドン発言をしていきます。これだけ一般質問の件数が多いというのも、ひとつやはりみんな不安に思ったりしているからこそ多いのではないかと考えております。これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

〔久保田恒憲議員 一般質問席 降壇〕

○議長（豊坂 敏文君） 以上をもって、久保田恒憲議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（豊坂 敏文君） ここで、暫時休憩をいたします。再開を11時といたします。

午前10時50分休憩

.....

午前11時00分再開

○議長（豊坂 敏文君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、3番、植村圭司議員の登壇をお願いをいたします。

〔植村 圭司議員 一般質問席 登壇〕

○議員（3番 植村 圭司君） こんにちは。令和元年最後の一般質問となりました。あと一人でございますので、よろしくお願ひいたします。

ちょっと個人的な話なんですけど、気管支をちょっと痛めておまして、途中お見苦しい点があるかもしれませんが、御了承願ひたいと思います。すみません。

最初に、きのう中山干拓のかさ上げの話が出たんですけども、来年度予算化するということが歓迎できる場所だと思ひまして、非常に喜んでおります。ぜひともやっていただきたいと思ひております。

それで、この前、台風19号のときに、私も現場に行きまして見ておったところなんですけども、水深が確かに深くなつていまして、通行止めももうしてありました。適切に通行止めをしてありましたので、大丈夫だったんですけども、水が引きまして見る見るうちに浅くなりまして、車が通れる状態ではあったんですけども、バリケードがしてありました。

で、見ておったところ、市民の方が次々に参りまして、そのバリケードをみずからどけて通るというふうなことも発生いたしまして、何人かの方に私も注意をしたところではありますけども、早く通りたいということで、状況的には水も引きまして天候もよくなつておりましたので、安全を確認できておりましたから、早く回復できるようにというふうに思ひておまして、連絡もしました。

ただ、なかなか時間がかかって、全面開通まで時間がかかりましたので、そういったところを

今後、明らかに回復するとわかっていれば、なるべく早めに市民の方々に寄り添って、完成するまでの間、開通が早くできるように気持ちを持っていただけたらと思います。これはお願いでございます。よろしくお願いいたします。答弁は要りません。

それでは、これから通告に従いまして3つの質問をしたいと思っております。

まず1番目ですけれども、観光地整備のあり方についてということで質問いたします。

壱岐市内の観光地で、公的な場所もしくは指定管理等されている場所につきましては、きれいに草刈りもされまして、壊れた場合であっても修理をされるといった状態で、きちんと管理されていると思います。

ところが、景観上美しいところは観光地になるわけございまして、そういった場所であっても、私有地、私の土地が観光地になっている場合もございます。先日、11月15日付の島内紙を見ていたところ、黒崎砲台跡でたき火があったという記事が載っていました。たき火をすること自体は特段問題ないと思っております、その記事の中をみますと、砲台跡地の中に私有地、私の土地と公的な市有地が混在しているということが記載されてありました。同様に、市内観光地の中には私の土地と公的な土地、両方が混在しているんだろうと思っております。

で、観光地への私有地、私の土地の草刈りであるとか、景観上の問題であった場合とか、場合によっては修理等必要になる場合もあると思うんですけれども、そういった場所の管理のあり方をどのように考えておられるのかをお伺いいたします。

そして、市民の中には、地元を観光地にしたいと熱心に努めていらっしゃる方もいらっしゃいます、その場合に、例えばユンボを使って工事をして、バラスを敷いたりとかというふうなこともしていらっしゃる方もいらっしゃいます。そういう場合の市の支援のあり方等についてお考えがあるのか、教えていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（豊坂 敏文君） 植村圭司議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。本田企画振興部長。

〔企画振興部長（本田 政明君） 登壇〕

○企画振興部長（本田 政明君） 植村議員の御質問にお答えをいたします。

市内の観光地には、議員のおっしゃるとおり、市の土地がほとんどであります、一部個人の土地、私有地がございます。牧崎園地、小牧崎園地などの自然公園では、私有地が大半を占めておりますが、合併前の旧町時代の判断におきまして、観光地として取り扱いをしているものにつきましては、除草などの管理を含め、合併後も引き続き市が実施している状況でございます。

議員のおっしゃるとおり、壱岐を活性化させたい、地元を活性化させたい、観光地にしたいとの思いで励んでおられる市民の方がいらっしゃることは承知しており、大変感謝をいたしております。

しかしながら、管理には当然費用が発生してまいりますので、私有地で観光地となっており、個人で管理されておりますところを新たに市で管理することは、現時点では考えておりません。

しかし、本市の観光振興に結びつく判断できる箇所につきましては、観光パンフレット及び現在構築を進めております壱岐市ポータルサイト等で情報の掲載など、PRすることは可能であり、ぜひ実施していきたいと考えております。

〔企画振興部長（本田 政明君） 降壇〕

○議長（豊坂 敏文君） 植村議員。

○議員（3番 植村 圭司君） 個人で管理されているところについてのお話でした。

旧町時代からの引き継ぎということで、現在、草刈り等はされているみたいですが、今後も新しく観光地になるところが出てくるかと思えます。ただ、その観光地の定義は今はっきりしておらず、どこが観光地か、観光地でないかというのわかりません。ですから、今回みたいにポータルサイト等で紹介していただけるということですので、それを目指して市民の方々も頑張っていられるかと思えますので、そこは支援していただきたいと思っています。

で、その支援の方法ですが、今後はまちづくり協議会等で、地元のほうからやりたいという声も上がってくるかもしれませんので、指導・助言のほうをお願いしたいと思います。この点、何かございましたら。答弁ありますでしょうか。

○議長（豊坂 敏文君） 本田企画振興部長。

○企画振興部長（本田 政明君） 観光地等をまちづくり協議会で観光資源として活用したい場合とのことでございます。

その辺につきましては、まちづくり協議会の中で検討していただいて、まちづくり協議会の中で予算措置、または、必要があれば市の支援等も考えられるのではなかろうかと思っております。

○議長（豊坂 敏文君） 植村議員。

○議員（3番 植村 圭司君） 市の支援等も考えられるということですので、相談があった場合はよろしくお願ひしたいと思います。

この点、これで終わりにしたいと思います。

続きまして、2番目でございます。

市民への情報周知を積極的にということで、質問をしたいと思っております。

まず、これに関連するような質問を、私が当選した直後にいたしました。そのときは、市長に対しまして、マスコミ等への周知を積極的にしてほしいということだったんですけども、そのときの答弁は、積極的にしたいということでしたので、私も時間を追って、そこは注目していったわけなんですけども、最近の傾向としまして、先日のSDGsイベント、これは弁天崎公園であったイベント、それと万葉公園のイベントです。これは令和のイベントということであった分

すけども、これらのイベントの集客、参加人数が少ないような印象を受けました。

振り返ってみますと、昨年ありました壱岐市市政15周年記念の防災サミット、これもちょっと会場には褒めるような数字が上がってっていないんじゃないかならうかと思います。さらに、Ikki-Bizの設立時にありました富士市産業支援センターの小出センター長の講演会も若干少ないように感じました。こうやって考えますと、今に始まったことではなくて、なかなか市の集客を求めるイベントに対しての参加人数が少ないように感じております。

こういったことをなぜかと考えましたときに、そもそも周知のほうが足りていないんじゃないかと思ひまして、税金を使った事業でございますので、周知が徹底されているのかということを確認したいと思ひまして、質問いたします。

また、市の事業案内等が公民館の回覧便で回っていきまして、その回覧便の中には、日にちであるとか、場所、あと締切日とか、いろいろとめ置くことがあるんですけども、何せ回覧ですので、すぐに回っていきます。こういったものを忘れなくするために、市のホームページがございますので、活用していただきまして、もう回覧は全部電子ファイルにするということで、ホームページに掲載、もしくは、イベントカレンダーがございますから、イベントカレンダーのほうを充実していただきまして、積極的に市民の目に触れるように残していただきたいと思ひているんですけども、その辺に對しましての見解をよろしくお願ひします。

○議長（豊坂 敏文君） 久間総務部長。

〔総務部長（久間 博喜君） 登壇〕

○総務部長（久間 博喜君） 3番、植村議員の御質問にお答えいたします。

現在、市の広報媒体の主なものとしまして、紙媒体として広報「いき」、回覧及び各戸配布、報道機関への投げ込み、そして、オンライン媒体として市ホームページ、各種のSNS、これはフェイスブック、ツイッター、ブログ、インスタグラムなどございます。

市の行事は、イベントはもとより、各分野にわたる市政情報について、市民皆様を初め島外の方も含め、壱岐市の情報をお届けするため、各広報媒体を活用して幅広い情報発信に努めております。

とりわけ急速に進む情報化社会において、オンラインでの情報発信の重要性を認識し、意識を持って取り組んでおり、先日、11月22日に、日本最大級の情報発信アプリであるスマートニュースにおいて壱岐市チャンネルを開設し、同アプリでの壱岐市公式情報等の配信を始めたところでございます。

このことについて、市民皆様への各戸配布、各島外壱岐の会の皆様への周知、そして博多港、唐津東港を含む各港へのポスター設置や、フェリーの船内への掲示等、今後も周知啓発に努めてまいります。



次に、市のホームページ、イベントカレンダーの充実・徹底や、電子ファイルとして閲覧できる方法など、積極的に市民の目に触れる方法を検討してはどうかという御質問でございますが、壱岐市ホームページのイベントカレンダーにつきましては、毎月発行しております市報「広報いき」の裏面に掲載しております今月の行事予定の掲載文を基本といたしまして、それに加えて、各担当課において把握している情報を、それぞれ掲載をしているところでございます。

情報の収集の方法につきましては、広報紙掲載の原稿作成段階において、各担当課等から関連行事について紹介を行い、総務課にて取りまとめを行い、記事としているところでございます。

今後も幅広い情報収集に努め、新鮮かつ有益な情報をお届けしてまいります。

また、回覧の内容を電子ファイルとして閲覧できる方法の検討についての御指摘でございますが、先ほど申し上げました本市の広報媒体には、大きく紙媒体、オンライン媒体がございますが、回覧や各戸に配布する内容については、各担当課において市民皆様並びに島外の方にも目にさせていただくように、基本的に同じ内容を市ホームページにも掲載しているところでございます。

ただし、ホームページに掲載されていないものもありますので、今後は徹底をしてまいります。

議員御指摘のように、市政情報を発信する各担当における周知・啓発意識の向上を図るとともに、市ホームページの情報の充実を図り、フェイスブックやブログ、ツイッターなどのSNSとの連携、また、スマートニュースの壱岐チャンネルといった情報発信アプリの活用等により、効果的で効率的な情報発信に努めてまいります。

〔総務部長（久間 博喜君） 降壇〕

○議長（豊坂 敏文君） 植村議員。

○議員（3番 植村 圭司君） 効果的な周知ということで確認いたしました。

それで、カレンダーのほうなんですけども、今、御指摘されたのは議会だよりの裏面ということベースにしているということだったと思うんですけども——済みません、市広報紙ですね。市広報紙の裏面をベースにしているということだったんですけども、この小さい島で行事がいっぱいありまして、いつに何が、どういう行事があるかということを目にわかっているならば、その行事の日程調整なんかも早くできるだろうと。関係者の方々もわざわざ日がぶつかった日に行事をするといったことが多々起こってしまっていて、例えば、以前あったんですけども、サイクルフェスタの日に、大谷公園で陸上大会をやっていると。もう駐車場がいっぱいいっぱい、何ともならないというふうなこともあったんですけども、こういったことをなくすために、市報の裏ベースでなくて、日程が決まっているものは、もう早目に掲載していただきまして、なるべく市民に使っていただきまして、便利に日程調整等で利用していただけるような考え方のもとに、やっていただきたいというふうに思っております。そういったことができるか、ちょっと教えていただきたいんですが。

○議長（豊坂 敏文君） 久間総務部長。

○総務部長（久間 博喜君） ただいま植村議員から御指摘をいただいた点については、意図するところを私も十分承知をしております。情報はなるべく早く、正確に、そして広く発信をしてみたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（豊坂 敏文君） 植村議員。

○議員（3番 植村 圭司君） よろしくお願ひいたします。

それと、イベントの件なんですけれども、イベントの参加人数が少ない件につきまして、これは周知の話で今いたしました、そもそも人を集めるということが仕事ではありますけれども、中身の充実。職員の方々は懸命にやっていたらっしゃいます、非常にいいイベントだと思います。私も一生懸命、時間がある限り行事に参加しているんですけれども、行事の中身は非常にいいと思います。SDGsの内容も、万葉公園でのイベントの内容も非常によかったです。非常によかったからこそ、たくさんの人に見ていただきかけたという思いが非常に強くありまして、やるのであれば徹底的に、人がたくさん集まるように計画をしていただきたい。

弁天崎の公園の話も、シャトルバスを使ったあたりもあったんですけども、なるべく人が集まるような方法で考えていただいたほうがよかったのかなと。反省点は幾つかあるかと思っておりますけれども、いいイベントをやっておりますから、とにかく人が集まるように考えていただきたいと思っております。ここは、そういうお願ひをしまして、終わりたいと思っております。

3番目なんですけれども、壱岐市東京事務所の活用方法についてということで、質問をさせていただきます。

きのう、テレビを見ていると、ラグビーワールドカップに出場しました日本チームのパレードがあつてありました。あのパレードを歩いていた丸の内の中通り、あそこに面するところが今度壱岐市の事務所が入るビルだというふうに認識をしております。テレビを見まして、私も、ああ、ここなのかというふうな感じて見ておまして、なかなか場所としては最高の立地だというふうに思いました。

で、その壱岐市の東京事務所の件なんですけれども、私も10年ほど関東圏、首都圏で働いておりましたので思うところがありまして、きょう質問をさせていただいております。

具体的な業務内容でありますとか、費用対効果等につきましては、きのうの同僚議員への答弁、もしくは、9月議会のほうでも答弁がありまして、なかなか具体的な話が出てこなかったのかなというふうに思っています。

で、首都圏につきましては人も多いことではございますので、情報も多うございます。単なる周知活動ということで、観光面で周知をしても、その効果がなかなか得られないんじゃないかというふうに思っております。例えるならば、私の印象なんですけれども、壱岐のPRを東京でした場合

に、アマゾン川の水面にスポイトで水を落とすというようなことなのかなど。で、費用対効果としましても、1,400万円で何ができるんだというぐらいのことじゃないかと。もっとかけるんだったら、かけるぐらいめり張りをつけないと、本当のPRにならないんじゃないかというふうに思っています。

また、その派遣する職員さんもお一人、所長ということでありまして、さらに現地でも採用するというので、2人体制ということでもございましたけども、その派遣した職員の方の心身ともに健康で管理をしていかんといかんということもありますので、ともすれば、失敗をすると税金の無駄遣いになりがちだというふうなことも危惧をしております。

この点を踏まえまして、以下の4つ質問させていただきます。

東京事務所を成功させるために、一番大事なことは何か。2点目に、首都圏から誘客する対象や仕組み、その人数など、数値目標が具体的にあれば教えていただきたいと思います。さらに、具体的な業務内容や年次計画。4番目に、派遣職員に求める資質ということで質問をしております。一部きのうの答弁と重なるところがございますが、準備してあると思いますので、よろしくお願いたします。

○議長（豊坂 敏文君） 本田企画振興部長。

〔企画振興部長（本田 政明君） 登壇〕

○企画振興部長（本田 政明君） 植村議員の3項目めの質問、壱岐市東京事務所の活用方法等について、お答えをいたします。

東京事務所の活用方法について、まず、1点目の成功させるために一番大事なことは何かという御質問でございます。

東京事務所が一番の使命は、首都圏における本市の認知度向上を図り、国内外への情報発信につなげることであります。そのためには、首都圏において壱岐市の職員が、観光や物産の宣伝を年間通じて行い、着実に取り組んでいくことが一番大切であると考えており、東京事務所の開設を判断したところでございます。

事務所を開設し、即座に認知度向上につながるとは考えておりませんし、そのように甘い世界でないことも重々承知しております。本市の職員が東京事務所設置により、首都圏を中心とした旅行社への営業を行うことにより、旅行商品が造成、販売されれば、誘客効果はもちろんでございますが、壱岐の名前が旅行社のパンフレットに掲載され、知名度向上につながる結果となると思っております。

また、都内レストランや大型店舗、日本橋長崎館等での壱岐産フェアなどを開催することで、販路開拓と同時に知名度向上にも期待できると考えております。

いずれにいたしましても、来年4月の東京事務所開設を契機として、首都圏での継続した活動

が展開できるものであり、県東京事務所や他市の東京事務所、東京壱岐雪州会等関係機関と連携、情報交換を行いながら、本市の認知度向上につながる取り組みを進めてまいります。

次に、首都圏から誘客する対象や仕組み、その人数など数値目標という件でございます。

次年度は開所初年度であり、まずは、壱岐市東京事務所の人脈形成を行うことが重要になるかと考えております。その1年間の活動の中で、具体的な誘客対象や仕組みづくりが浮き彫りになるものであり、そういった意味で、次年度の活動目標としては、誘客に関する部分では、旅行社への営業訪問回数を延べ200件以上と設定するようしております。

次に、具体的な業務内容や年次計画でございますが、営業内容につきましては、その柱として、1点目が本市の観光宣伝と観光客の誘客に関すること。2点目が、物産の宣伝、販路開拓、販売促進に関すること。この2点を中心に活動するよう考えております。

具体的には、先ほど申し上げましたが、旅行社への営業活動を年間延べ200社以上、レストラン・大型店舗等での壱岐フェアを年2回以上、I k i I k i サポートショップの掘り起こし、年延べ30件訪問、新規サポートショップ認定数5件を目標として考えております。

また、その他の業務として、地域おこし企業人の発掘、企業誘致や実業団チーム等の合宿誘致、本市のふるさと納税のPRなどにも機会を捉えて取り組んでまいりたいと考えております。

年次計画につきましては、初年度となる令和2年度には、誘客活動や物産フェアなどの事業展開の実施と並行した人脈形成に注力し、令和3年以降の目標値設定まで行いたいと考えております。

最後に、派遣職員に求める資質ということでございますが、まず、人脈形成ができないと何も始まらないこととなりますので、周りの協力を得られる対応力、素早い行動力、そして常に壱岐のためを考えた判断力が求められると思います。

その上で、東京での地理的な知見や旅行社への営業経験があるにこしたことはございませんが、この2点は事務所開設後の経験の積み重ねによって蓄積できるものと考えております。

議員おっしゃるように、派遣する職員が心身ともに健康であることは基本でありますので、重責を全うできるよう緻密な相談体制の構築に努めてまいりたいと思っております。

〔企画振興部長（本田 政明君） 降壇〕

○議長（豊坂 敏文君） 植村議員。

○議員（3番 植村 圭司君） お答えいただきました。

それで、販促等いろいろ述べられているんですけども、私、一番危険なのは、やっぱり営業活動、例えば旅行社200訪問しますという話があるんですけども、ほぼほぼ毎日どっかに行っているという感じだと思うんですが、壱岐が東京にどういうふう認識されているか、その辺のことを承知して計画をつくられているのか、非常に不安になりました。

といいますのが、私も東京に住んでいたときに、「壱岐です」と言ったときに、大体、ああ、そうですかと言われて、隠岐の島を言われるんです。で、壱岐というと島根県ですかという話になって、ああ、それ隠岐ですという話で、まず隠岐と勘違いされると。

その次に、長崎県ですと言えば、まだぴんとこられるんですけども、福岡県の上とか、福岡の北とか、韓国と九州の間とかという話をすると、対馬のほうを今度は想像されて、壱岐の島が認識されていないということが結構ありました。

結局、何を言いたいかというと、壱岐というのは、首都圏、関東圏とかでは余り認識されていない状態で、営業に行ったところに余りフックしないといいますか、心に残らないことが多くて、直接の営業に結びつきにくいというのがあると思います。

成功例としまして、例えば、五島の市議さんを通じまして、五島のお話を聞きました。で、五島も東京に事務所がありまして、で、五島の場合は大村市さんと共有で事務所を持ってあります。職員も共有でいらっしやいまして、大村と五島、両方で事務所と人を共有しているという状態がありました。

で、五島の場合は、何がいいかと言いますと、教育旅行のほうが伸びているという話になりまして、教育旅行はターゲットを絞ったと。そこは70人ぐらい乗れる飛行機としまして、福岡と五島の飛行機がありますと。ですから、東京・福岡・五島という交通路を使って誘客ができたんだというふうなお話でした。

それと、五島は世界遺産がありますということで、営業もしやすかったというのがありまして、世界遺産がある五島に教育旅行で70人規模のツアーが組みやすかったというふうなお話があって、伸びているというふうなお話でした。

壱岐の場合といいますと、御承知のとおりアクセスも悪いというのがありますので、多くて40人規模、飛行機の関係で40人規模、もしくは、ジェットホイルを使ってもアクセスが悪いというデメリットがあります。

それと、壱岐は世界遺産でもありませんので、関東圏の方々に対するPRがしにくいというデメリットがあります。ですから、相当な準備をして、ターゲットを決めて計画的にいかないと、なかなか成功に結びつかないんじゃないかというふうに思っております。

ですから、東京事務所を成功させるためには、もろもろ営業活動等をされるとおっしゃったんですけども、効果的なねらいと目的、これを持って行かないと成功しにくいんだろうというふうに思います。

それと、東京に行きますと、たくさん人がいっぱいいますので、とにかく売れます。ですから、壱岐焼酎とか、肉にしても、魚介類にしても売れると思います。売れますが、売れたからといって人が来るとは限らないということです。私も東京にしながら、いろんなところの物産展に行っ

ていました。北海道とか、石川とか、高知とか、いろんなところの物産展が各所でやっております。そういったたくさんやっている中で、壱岐が入っていったときに、勝ち残れるのかということに対して、なかなかその辺が戦略的にいかないと、結びつけにくいと。たくさん情報がありますから、壱岐の情報も埋もれていくというふうになります。

それと、東京圏から移動するのに、さっきは五島の航空機の話をしたんですけども、とにかくアクセスがいいので、免許証がなくてもどこでも移動できるのは当然なんですけども、北海道、沖縄、石垣、奄美とかは飛行機を使って直行便で行きますから、まず直行便で行ける場所、で、新幹線、特急バス、あと高速を使って、ありとあらゆるところに移動できます。こういった方々を遠くの壱岐まで呼び寄せるといふときに、普通に営業活動をして、来てくださいと言うだけでは、なかなか動くもんじゃないかと、人の心に刺さるものがないといかんというふうに思っています。

あと、東京の方々なんですけど、日本だけじゃなくて、グアムとか、台湾とか、そういったところに行きます。会社のOLさんたちも、金曜日に台湾に行って、月曜日には食事をして帰ってくるといったような海外への展開もしてありますので、壱岐のライバルがたくさんあると思っています。いただいていいと思います。そういった方々に対して、食材いいよとか言うだけでは、どうしても負けていくんじゃないかというふうに思います。フックといいますか、どうかして壱岐に来させるためにも、なかなか来にくい島だというのを逆にアピールするとか、何らの戦略を持っていかないと成功しにくいと思うんですけども、これにつきまして何かございましたら、感想なりいただきたいと思います。

○議長（豊坂 敏文君） 企画振興部長。

○企画振興部長（本田 政明君） ただいま、植村議員から御指摘といたしますか、10年間おられた経験談を指摘いただきまして、ありがとうございます。

実際、言われるように壱岐の認知度は東京では低いということは十分承知をしております。そこで、やっぱり壱岐の認知度を上げて、壱岐への誘客、東京での物産の振興等に努めたいと思っております。

いろいろ戦略も今含めて言われましたが、今後、さまざまな指摘、例えば物産展でいいますと、単なる物産展ではなく、その生産が生まれたストーリー等を考えた物産展等を含めて、いろいろな仕組みづくりを考えたいと思っております。

○議長（豊坂 敏文君） 植村議員。

○議員（3番 植村 圭司君） そのいろんな仕組みづくりの話なんですけども、気になることが、きのうの答弁の中にございまして、同僚議員の答弁の中で、本田部長が、全国の情報が集まる東京都で活動することは、全国に情報発信ができるというふうなお話をされたんです。これの意味

がよくわからなくて、どういった活動がどういった情報発信になるといった具体を考えていらっしやるのであれば、教えていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（豊坂 敏文君） 企画振興部長。

○企画振興部長（本田 政明君） ただいまの御質問でございますが、東京はやっぱり人口が一番多いということでございますので、東京で壱岐を知ってもらうことが、それが全国、東京の人に知ってもらうことが全国、または国外等につきましても壱岐の情報が発信できるということで、そういうことでお答えをいたしました。

○議長（豊坂 敏文君） 植村議員。

○議員（3番 植村 圭司君） わかりました。おっしゃられている意味は非常にわかります。先ほど私が申し上げましたアマゾン川に一滴の水というふうなことになるかというふうなことで、確かに壱岐の情報が東京で出ていけば、それはそれなりの効果が上がると思います。上がると思いますが、1,400万円の予算をもって営業活動等々活動されたときに、どれだけ効果が上がるかということのほうに心配でなりません。

実はきのう、市長のほうも経済的効果は把握していませんという話を、同僚議員に対する答弁だったんですけども、経済的効果は把握していませんという話だったんですけども、それも含めまして市長の思いがあれば、お伺いしたいんですが。

○議長（豊坂 敏文君） 白川市長。

○市長（白川 博一君） 私は、この東京事務所の開設について、いろいろ不安な点を指摘されとるわけですが、私は常に言っております。壱岐のためになるんだったら、何でもありだと。一步踏み出すんだと。私はこの姿勢をいつも持っております。

ですから、私は今回の東京事務所、先ほどから部長が申しておりますように、壱岐の知名度を上げる。一人でも多くの方々に壱岐を知っていただく。これは福岡事務所が閉鎖いたしますけれども、その比ではないと、私は思っております。

今、アマゾン川に水滴一滴とおっしゃいました。それもそうかもしれません。しかし、北京でチョウが羽ばたくと、ニューヨークでハリケーンが起これば、こういう言葉もございませぬ。私は、ぜひ一步踏み出したチョウの羽ばたきが、次に大きな風あるいは波を生む。そのことを信じております。ぜひこのことについて、皆さん御理解いただいて、ぜひ東京事務所の開設が成功だったということに全力を尽くしますし、皆さん方もそれについて御支援いただきたい。先ほど言いましたチョウの羽ばたきでございませぬけれども、大きな東京雪州会の力もあります。

そしてまた、東京には世界からの人が来ております。その方々はそれぞれの母国に帰る。あるいは、北海道からの人もいっぱい来ております。そういった人も北海道への連絡をする。そういったことで私は東京での事務所の設置というのは、本当に驚くような効果を生ませてみせると思

っておりますので、御理解をお願いしたいと思っております。

○議長（豊坂 敏文君） 植村議員。

○議員（3番 植村 圭司君） 効果を見せるということでございますので、ここは私も期待しているところでございます。

東京での成功というのを祈っておりますが、済みません、懸念することがもう一つございまして、こちらは第3期壱岐市観光振興計画ございまして、この中に、福岡事務所の話が書いてあります。読み上げますけども、

福岡市の話としましては、本市への誘客の多くは隣接する福岡都市圏であり、また、福岡市を経由されることが大半であるため、福岡市においてきめ細やかな情報発信や情報収集のため、壱岐福岡事務所の活用は不可欠であり、機能を発揮するためには、行政のみならず、観光関係やその他関係する団体との連携強化を進めてまいります。

となっているわけです。

で、計画年が2018年から2020年ということで、ちょうどことしが中間年となっております。市長のおっしゃられました成功させるという気持ちもありますけども、この行政の継続性の中で、この観光の振興計画、これを書きかえるという話になるのか。なるのであればどういうふうになるのかというふうなことで、教えていただきたいんですが。

○議長（豊坂 敏文君） 白川市長。

○市長（白川 博一君） 私はいつも計画というのは、計画書をつくるのが目的ではなくて、計画を実行するのが目的だと申し上げております。その観光振興計画、確かにその時点で、福岡のことを書いております。当然その方針で行くということでございます。

しかしながら、計画というのはやはり見直しもございまして、方針転換もございまして。今、その福岡が一番近くて、大事であるということは間違いないわけです。そういったことで、じゃ、福岡事務所はなぜ廃止するのかということですが、あと1年を残して廃止するわけではございまして、それこそ前々から説明いたしておりますように、それにかわる出張体制とか、そういったものでそれをカバーしていく。やはりそういったことで、今の計画と合わないんじゃないかということではなくて、それをさらに進化させる、そういうふうなことで御理解いただきたいと思っております。

○議長（豊坂 敏文君） 植村議員。

○議員（3番 植村 圭司君） 進化ということで、進めるということだと思いますけども、進化はいいと思います。ですから、今ここには東京事務所の話が書いてありませんので、その話も書いていかないと進化にならないと思うんです。

ですから、福岡と東京の両方の役割、機能、それは事務所ではなくて、仕事の役割分担、機能を



明確に追加していただくことになるかと思えますけれども、そういった話になるのかどうか、教えていただきたいんですが。

○議長（豊坂 敏文君） 企画振興部長。

○企画振興部長（本田 政明君） この観光計画は、つくったときは、先ほど市長が言いましたように、福岡事務所の発展等について書いたわけですが、市長が言われますように、計画は変更すること、見直しすることも必要でございますので、今後は東京事務所の開設をして、観光それから物産の振興に努めたいと考えております。

○議長（豊坂 敏文君） 植村議員。

○議員（3番 植村 圭司君） わかりました。それであれば、より充実していくことというふうに理解いたしました。

それと、最後になりますけれども、今、おっしゃられているのが観光関係の話でありまして、物産振興とか販売促進なんですけれども、実は、私が思っているのが、テレワークとか、移住で首都圏のほうから人を呼ぼうという事業もあるわけで、例えば逆参勤交代とかいうことで、今後もそれでいこうとしておりますから、この事務所を有効活用しまして、例えば、逆参勤交代になる会社の拠点になる、拠点ってまあそう……打ち合わせに対応できる窓口にするでありますとか、あとは、移住相談ができるんじゃないんかとか、それと、SDGsで見ますと、慶応大学のSF Cも近くでございます。

ですから、こういった東京での展開っていうことを考えている中で、さらに、古事記、先ほどありました古事記も新宿TSUTAYAのほうで販売をしているようでございますし、あと、その古事記といいますのは漫画ですから、例えば、秋葉原にいて漫画の関係の方々にちょっと接触するとか、そういった新しい展開、何らかの意図を持った新展開というのを、計画に入れないといけないんじゃないかというふうに思っています、ですから、観光とか商工振興だけじゃなくて、政策企画とかSDGs、そういった方々の担当課も入ってくるんじゃないかというふうに思うんですけれども、その辺いかがでしょうか、考え方としまして。

○議長（豊坂 敏文君） 企画振興部長。

○企画振興部長（本田 政明君） ただいまの御質問でございますが、東京事務所は、先ほど最初にお答えいたしました、1点目が観光、2点目が物産の振興を主な柱ということでございますが、やはり、東京事務所の連携協定を結んでおります富士ゼロックス、それから現在、逆参勤交代を実施しておりますが、その方々壱岐に来られた方々との連携とは、もちろん進めてまいりたいと思っておりますし、移住相談につきましても東京での移住相談も随時、適宜、開催されるのではなかろうかと考えておりますので、必要な部署との連携につきましては、今後もいろいろ連携して進めたいと考えております。

○議長（豊坂 敏文君） 植村議員。

○議員（3番 植村 圭司君） 東京事務所をせっかくつくることのでございますので、多方面で展開していただきまして、成功させていただきたいと思っております。

それと、最後です。

東京に進出するほとんど自治体さんは、中央官庁もしくは県等で、結びつきを持ちまして、情報収集をしているようでございますので、都内への活動もですね、例えば、国交省でありますとか、内閣府、こういったところに出入りしまして、国の動向、もしくは県の動向等をつかんでいただきまして、さまざまな展開を健康な職員でやっていただきたいと思っております。

以上で、私の質問を終わらせていただきたいと思えます。

これで、今年が終わりますので、よいお年をお迎えください。

どうも、ありがとうございました。

〔植村 圭司議員 一般質問席 降壇〕

○議長（豊坂 敏文君） 以上をもって、植村圭司議員の一般質問を終わります。

以上で、一般質問を終わります。

---

○議長（豊坂 敏文君） 本日の日程は終了いたしました。12月13日は各常任委員会、12月16日は予算特別委員会を、いずれも午前10時から開催いたします。

次の本会議は12月19日木曜日午前10時から開きます。

本日はこれで散会いたします。お疲れ様でした。

午前11時48分散会

---